

〔近代化、即ち「神（C）に型どれる人間の概念の探究」について〕

*「萬人をその胸に救ひとる人格神が、その手をその脚を、さらにつきその胴體をもぎとられ、それらが制度化せられ機械化（A）せられる——で、神は人體を失つて、完全な精神としての抽象化を受ける。その精神が文學の領域（B）として残されるといふわけだ」。

*「近代ヨーロッパは神を見失つた——が、それはただ神の解體と變形と抽象化とを意味するに過ぎぬ。まさにそのための手續きであり過程にすぎなかつたヨーロッパの近代精神とその政治制度・經濟機構（A）」。（『近代の宿命』全二P463・P466）

關係論：*神（C）の死（西歐近代C'）⇒からの關係〔①近代化（D 1の至大化：神の解體と變形と抽象化）〕⇒「②ヒューマニズム・民主主義・個人主義等」（①の概念F⇒②への用法③（言葉への距離測定・so called・ソフトウェア・精神の政學：Eの至大化）⇒國及び國民（△枠）：①への適應正常。

